

日本から世界に目を向けよう～世界中がともだち～

福山市立伊勢丘小学校 担当教科：全教科 古川 英理

実践教科：教科等外・学活・音楽 対象学年：小学1年生 対象人数：33名（1年1組）・100名（1学年全体）

■実践の目的

- ベトナムの輸出品（海老）を通して、児童にベトナムと広島をつなぐことを伝える。
→お好み焼きに入っている海老（輸入率51.2%）の21.2%はベトナムから輸入していることを伝える。
- ベトナムクイズを通して、児童にベトナムの文化などを伝える。
- ベトナムの食材や町の様子から、児童に国が違うと違うものもあるが、同じものもあることを伝える。
- ベトナムの町の標識の意味を考え、児童に言葉が分からなくても理解できるものがあることを伝える。
- ベトナムの町の標識の学習を通して、クラスのルールを学ぶ。
- ベトナムでの挨拶の言い方を知り、児童に世界の国の言葉で挨拶をすることの楽しさを伝える。

■授業の構成

時限	テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1	○ベトナムという日本とは違う国があることについて知る ・ベトナムの文化について知り、興味や関心をもつ	【1学年全体を対象】 (1) ベトナムと広島をつなぐことを知る（お好み焼きの材料を使用する） (2) ベトナムクイズを行う (3) ベトナムの文化を体験する（おもちゃ、食べ物、マスク、バイクの写真など） (4) 本時の振り返りを行い、次時への見直しをもつ	・パワーポイント① ・ベトナムの品物 ・振り返りシート①
2	○ベトナムと日本の国を比べる ・国が違うと、違うところもあるが、同じところもたくさんあることに気づく	【1年1組を対象】 (1) ベトナムの町の様子やベトナムの人の生活の中から日本と同じ所、違う所を見つける (2) レスカの学びカードで、ベトナムの小学生と日本の小学生の学校生活の様子を比べる (3) 本時の振り返りを行い、次時への見直しをもつ	・パワーポイント② ・レスカの学びカード（ベトナム版） ・振り返りシート②
3	○世界の国の標識が、何を伝えようとしているのかを考える ・言葉が分からなくても伝わるものがあることに気づく	【1年1組を対象】 (1) ベトナムの標識を見て、標識が何の意味を表しているのかを考える 標識のイラストだけでなく、色や形にも注目して考える (2) 世界のいろいろな国の標識をみて、標識が何の意味を表しているのかを考える (3) 本時の振り返りを行い、次時への見直しをもつ	・標識の写真 ・振り返りシート③
4 5	○クラスのルールの標識をつくる ・みんなに伝えたいルールの標識を考え、言葉を使わなくても伝わるように作る	【1年1組を対象】 (1) 身の回りには、どのような標識があるのか確認する (2) どのようなイラスト（色や形）にしたら伝えることができるのかを、前時に学習した標識を基に考える (3) 他のクラスの児童に伝えたい教室や学校のルールを考え、標識の構想を練る（グループ学習） (4) 考えた構想を基に、教室のルールの標識を作成する（グループ学習） (5) 本時の振り返りを行い、次時への見直しをもつ	・標識の写真 ・標識を書くシート ・振り返りシート④⑤

6	<p>○世界の国の挨拶を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉を使わないと伝わらないものがあることに気づき、自分からも進んで言葉にして伝えようとする意欲をもつ 	<p>【1学年全体を対象】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1年1組の児童が作った標識を他のクラスの児童にクイズ形式で伝える 言葉を使わないと伝わらないものについて考える 世界の国の挨拶（日本、ベトナム、フランス、ケニア、ドイツ、アメリカ、中国、韓国）を知る 挨拶の時の表情について考える 世界の国の挨拶を笑顔で言う 音楽発表会で歌う歌「世界中がともだち」を練習する 本時の振り返りを行い、音楽発表会への見通しをもつ 	<ul style="list-style-type: none"> 児童が作った標識 世界の国の国旗（掲示物） 世界の国の挨拶（掲示物） 振り返りシート⑥
7	<p>○音楽発表会で歌の発表をする</p> <ul style="list-style-type: none"> 学んだことを表現する場として、世界の国の挨拶の歌を笑顔で歌い、聞いている人に気持ちを届ける 	<p>【1学年全体を対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「世界中がともだち」を笑顔で歌う 世界の国の楽器を取り入れて、代表児童が演奏する 世界の国の挨拶（日本、ベトナム、フランス、ケニア、ドイツ、アメリカ、中国、韓国）の所では、その国の国旗を代表児童が提示する 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の国旗 世界の楽器 振り返りシート⑦

■この授業に注目！

1 時間目

○ベトナムという日本とは違う国があることについて知る。

ねらい：ベトナムの文化について知り、興味や関心をもつ。

〈本時の流れ〉

1時間目の授業の導入として、まず、身近な食べ物のお好み焼きの材料をあげさせ、多くの材料が海外から輸入されていることを話した。そして、材料の一つである「えび」（輸入率45.1%）は、21.2%がベトナムから輸入されていることを話し、ベトナムと広島をつながり子どもに感じさせた。

その後、ベトナムの国について興味・関心が深まるように、ベトナムクイズを行った。1年生の児童の興味が継続するように、ベトナム研修の内容を旅行記のような形にしながら合間にクイズを挟んだ。

【ベトナムクイズの内容】

- ①ベトナムには、どうやって行ったのか。
- ②日本のお金はベトナムでも使うことができるか。
- ③ベトナムのお金の単位は何か。
- ④ベトナムにたくさんある乗り物は何か。
- ⑤ベトナムの人がバイクで運ぶものは何か。
- ⑥ベトナムの民族衣装「アオザイ」はどのような意味なのか。
- ⑦ベトナムの人が食べないお肉は何か。
- ⑧ベトナムにある特別な日は何か。
- ⑨ベトナム語で挨拶をするとき、何と言うか。
- ⑩ベトナムの国旗は何か。

①のクイズの前に、ベトナムと日本の位置関係を教えた。自分たちが住んでいる広島県の位置も十分には分かっていない段階であったが、日本が海に囲まれており、海外に行くには海を渡らなければいけないことを、知っている児童もいた。④のクイズの時には、たくさんのバイクが信号待ちをしている場面の写真だけでなく、2人乗り、3人乗り、そして4人乗りしている場面の写真も紹介した。その後、⑤のクイズの時には、豚や犬、ロバ、風船、自転車を運んでいるバイクを紹介した。

⑨、⑩のクイズの時には、6時間目の授業内容である世界の国のあいさつにつなげるため、⑨の時には、中国やフランス、韓国の挨拶を、⑩の時にはアメリカや日本の国旗を回答の選択肢に入れた。最後に、ベトナムのおもちゃ、食べ物、マスク、バイクの写真などでベトナムの文化を体験した。

〈児童の反応〉

○町の様子

- バイクが町にいっぱいあったからびっくりしました。
- バイクにいろんなものを乗せることができ、ベトナムの人はすごいと思いました。
- 動物をバイクで運んでいたから、びっくりしました。

○食べ物

- ベトナムのおやつで日本と似ているものがあったからびっくりしました。
- かえりを食べるのがびっくりしました。

○服装

- ふく（アオザイ）がきれいでした。

○勉強

- 算数の教科書を、自分たちの教科書と比べて見たけど、違うところがたくさんありました。

○お金

- 日本のお金がどこでも使えないのがびっくりしました。

○授業の感想

- もっとベトナムのことが知りたいです。
- クイズでベトナムのことが知れて、うれしかったです。

〈所感〉

1年生にとって、難しすぎず、優しすぎない問題や選択肢を作ることに試行錯誤したが、そのクイズを通して、児童が興味・関心を持ち、結果的にベトナムの文化を知ることができた。しかし、クイズにしたため正解数にこだわりすぎてしまう児童もいた。正解の数ではなく、「どのクイズが難しかった?」「どのクイズが楽しかった?」という、視点を与えておく必要があった。

振り返りカードから、街中を走るバイクの多さに驚きを覚えた児童が多いことが分かった。自分が普段見ている光景との違いが、よほど衝撃的だったのではないだろうか。また、日本のどのお菓みに似ているかという観点でベトナムのお菓子を見た児童がいた。中でも私が一番驚いたのは、算数の教科書を比較した児童がいたことで、つくりだけでなく、絵を見ただけでは何の問題なのか分からないことを見つけていた。これらのことから、写真等のように視覚でとらえることのできるものや、実際に実物に触れることができる環境を整えることが、児童が異文化に興味をもつのに効果的であることに改めて気づかされた。

2 時間目

○ベトナムと日本の国を比べる。

ねらい：国が違うと、違うところもあるが、同じところもたくさんあることに気づく。

〈本時の流れ〉

まずは、ベトナムの町の様子やベトナムの人の生活と比較して、日本と同じ所、違う所をみつけた。



天秤棒で果物を売る人



屋台で果物を売る人

〈児童の反応〉

児童がみつけた、ベトナムと日本の「同じところ」と「違うところ」をまとめると次の表になる。

	同じところ	違うところ
乗り物	•車やバイクが走っている。	•バイクがたくさん通っている。
服装	•服を着ている。 •くつをはいている。 •帽子をかぶっている。	•ノンラーという帽子をかぶっている。
横断歩道	•横断歩道の色は、日本と同じ白い線でひいてある。	•無い所があり、渡るのが大変そう。
信号機	•色が同じで、青色、赤色、黄色だ。	•隣に数字があり、何秒間待つかわかる仕組みになっている。
食べ方・道具	•お箸を使って、ご飯を食べている。	•お箸が長い。
町の様子	•ちょうちんがある。 •電柱がある。	•果物を路上で売っている人がいる。 •道端で食べ物を食べている人がいる。

その後、より身近な文化の相違比較をさせるために、レヌカの学びカード（ベトナム版）で、ベトナムの小学生と日本の小学生の学校生活の様子を比べた。番号順にベトナムのカードと日本のカードの内容を読み上げた。9番までそれぞれのカードをベトナムの位置と日本の位置に並べ、その後カードを裏返すように指示をした。カードを裏返すと、ベトナムカードは、ベトナムの小学校の写真に、日本のカードは、伊勢丘小学校の写真になるようにした。

最後に、ベトナムの小学校の様子の写真を見せて、カードに書いてあった内容が本当のことかどうかを確認した。

～ベトナムのカード～

①にんきのキャラクターは 1. ドラえもん 2. くれよんしんちゃん 3. めいたんていコナン だよ	②くつをはいたままきょうしつにはいるよ。	③たいこのおとでじゅぎょうじかんのかわりがわかるよ。
④がっこうにはばいくやじてんしゃでおくってもらうよ。	⑤そうじのじかんはないよ。	⑥むらさきいろのインクのボールペンでノートにじをかきよ。
⑦なつでもすいえないのじゅぎょうはないよ。	⑧ひるごはんをたべたあとはおひるねをするよ。	⑨たいそうふくにきがえずにたいいくをするよ。

～カードを裏返したら出来あがる写真～



ベトナムの小学校

～日本のカード～

①にんきのキャラクターは 1. ようかいウォッチ 2. アイカツ ミッキーマウスだよ。	②げたばこでくつをぬいできょうしつにはいるよ。	③チャイムのおとでじゅぎょうじかんのおわりがわかるよ。
④がっこうにはとうこうはんであるいていくよ。	⑤じぶんたちでそうじをするよ。	⑥えんぴつでノートにじをかくよ。
⑦なつになるとすいえいのじゅぎょうがあるよ	⑧ひるごはんをたべたあとはきゅうけいじかんがあるよ。	⑨たいそうふくにきがえてたいいくをするよ。

～カードを裏返したら出来あがる写真～



福山市立伊勢丘小学校

〈児童の反応〉

- 似ているところに着目
 - ・ベトナムは違う国だけど、日本と似ていると思いました。
 - ・違うところがいっぱいあったけど同じところもいっぱいあったからびっくりしました。
 - ・日本でも有名なキャラクターがベトナムで人気なのがびっくりしました。
- 違うところに着目
 - ・ベトナムは小学生になっても、お昼寝があるのでびっくりしました。
 - ・ベトナムは学校のチャイムが太鼓でびっくりしました。
 - ・ベトナムの学校では、靴をぬがないことにびっくりしました。
 - ・危ないから、バイクに乗るときはヘルメットをかぶったほうがいいよ。
 - ・ベトナムでは、学校に送り迎えしてくれるから、うらやましいと思いました。

〈所感〉

まず生活の中で同じ所、違う所みつけを行い、その後に学校生活の中で同じ所、違う所みつけをおこなった。これは、児童の思考の流れを遠くからより身近なものへもってくるもので、その結果、日本と同じ所、違う所を楽しみながら見つけることができた。お箸を使って食べるのは一緒だが、お箸の長さが違うといった、日本にあるけどちょっと違うものを見せたとき、児童はとても驚いていた。しかし、それと同時に、違う国だけど日本と似ている所があるということが実感できた児童もいた。「国が違うと、違うところもあるが、同じところもたくさんあることに気づく。」ということで、本時の授業のねらいは、達成できたと思う。

また、ベトナムの人の日本に対するイメージの多くが「桜が綺麗」だということを今回の研修で知り、自校や日本の素晴らしさにも気づいてほしいという思いから、桜が満開に咲いている時の伊勢丘小学校の写真を使用した。

3 時間目

- 世界の国の標識が、何を伝えようとしているのかを考える。

ねらい：言葉が分からなくても伝わるものがあることに気づく。

〈本時の流れ〉

導入として、ベトナムのトイレの写真を2枚見せた。



①の写真では、男性用、女性用がどちらか分からないが、②では、どちらのトイレを使用すればよいのか分かることに気がついた。言葉が分からなくても、絵で意味を伝えることができるということを考えていくために、世界の国の標識が何を伝えようとしているのかを考える活動を設定した。まずは、ベトナムの標識を見せて、標識が何の意味を表しているのかを考えさせた。標識の写真をアップとルーズで提示することで、標識の絵や色、形だけでなく、どのような場所にあるのかにも注目させた。標識から、青色の標識は、「～してもよい。」「～するところがある。」といった意味の「指示標識」だということ、赤色の標識は、「～したらだめ。」といった意味の「規制標識」だということに気付くことができた。

【標識の写真をアップで提示】

【標識の写真をルーズで提示】

① 横断歩道



② バイク通行禁止



③ 動物牽引車通行禁止

【動物牽引車の紹介】



次に、ベトナムではない世界の国の標識を見せて、標識が何の意味を表しているのかを考えさせた。ベトナムの標識での体験を生かし、楽しみながら考えることができていた。

④ コアラに注意

⑤ ペンギンが道路を渡るので注意

⑥ ガムをかんだら罰金

車の速度を下げてください



〈児童の反応〉

- ②→バイクが通ってはいけないところがあるのが知らなかったです。
- ②③→ベトナムの標識も外側が赤色は禁止の標識なのが分かりました。
- ④→オーストラリアには、野生のコアラがたくさんいることが分かりました。
- ⑤→ニュージーランドでは、ペンギンが道路に飛び出してくるなんて、びっくりしました。
- ④⑤→コアラとペンギンの絵の標識があっびっくりしました。
- ⑥→ガムを町で食べたらダメな国があるのが知らなかったです。
ガムを町で食べたらお金を払わないといけない国があるのにびっくりしました。
シンガポールは、とても綺麗な国っていうのが分かりました。

○感想

- ・世界の国には、いろんな標識があっおもしろかったです。

○標識について

- ・色によって、標識の意味が違うことが分かりました。
- ・言葉が分からなくても、標識の意味が分かって、おどろきました。

〈所感〉

児童は標識だけでなく、標識の絵にも大変興味をもった。例えば、動物牽引車の紹介を写真で見た時に、牛に角がはえていることに驚いていた児童や、バッファローという動物に興味を抱いていた児童などがいた。児童の生活経験によって、知識に個人差があり、国際理解教育の授業では、授業を行うための前提条件に差が表れることを実感した。その個人差にどのように対応するのが今後の課題だと考えた。

また、青色の標識を1つしか用意していなかった。1つだけでは、その色はどのような意味をもつ標識なのかを決めることはできないので、複数用意する必要があることが分かった。

4・5 時間目

○クラスのルールをの標識をつくる。

ねらい：みんなに伝えたいルールの標識を考え、言葉を使わなくても伝わるように作る。

〈本時の流れ〉

まずは、どのようなルールがクラスや学校にあるのかを確認した。その中から、班でどのルールの標識を作りたいか選ばせた。

【児童が選んだルール】

- ・給食を残さずに食べよう。
- ・服装を整えよう。
- ・ロッカーからブレザーをたらさないようにしよう。
- ・字をきれいに書こう。
- ・挨拶を大きな声でしよう。
- ・廊下の右側を歩こう。
- ・授業中のおしゃべりをゼロにしよう。
- ・本棚に本をぐちゃぐちゃにおかない。

その後、どの色や形にするのか、どのようなイラストにしたらルールが伝わるかといった標識の構想を考えさせた。

標識を作りながら、「給食を残さずに食べよう。」よりは、「給食を残したらだめ。」といった意味の規制標識にしたほうが、ルールを見た人により伝わるのではないかと考え、赤色の標識にしていた。その他に、赤色標識で作ったルールは以下の通りである。

- ・ロッカーからブレザーをたらさないようにしよう→ロッカーからブレザーをたらしたらだめ
- ・ノートに字をきれいに書こう→ノートに字をきたなく書いたらだめ
- ・廊下の右側を歩こう→廊下の左側を歩いたらだめ
- ・授業中のおしゃべりをゼロにしよう→授業中におしゃべりをしたらだめ
- ・本棚に本をぐちゃぐちゃにおかない

また、黄色標識でつくったルールは、「服装を整えよう」と「挨拶を大きな声でしよう」の2点である。

【完成した標識】



(授業中におしゃべりをしたらだめ)



(ノートに字をきたなく書いたらだめ)



(給食を残したらだめ)



(本棚に本をぐちゃぐちゃにおかない)

〈児童の反応〉

- 班のみんなで力を合わせて標識をつくりました。
- 標識を見た人がすぐに分かるように丁寧につくりました。
- 分かりやすく書くのが大変だったけど、がんばりました。
- また、標識作りをしたいです。
- 他のクラスの子が分かってくれるのか、楽しみです。

〈所感〉

標識を作る作業に入る前に、みんなが作った標識を他のクラスの児童に伝える授業をするということを伝えていたので、標識を見る人のことを考えながら、分かりやすい標識を作ることができた。ただ、青色の標識をつくった班がなく、赤色の標識に偏ってしまったので、どのようなルールが青色の標識になるのか事前に考え声かけをする必要があることが分かった。

また、1年生にとって、標識作りは難しい作業になるのではないかと思っていたが、どの班も前時で知った標識のルールを活かしながら、意欲をもって楽しく作ることができていた。個人ではなく、協同学習を取り入れたことで、助け合いながら作ることができていた。

6 時間目

○世界の国の挨拶を知る。

ねらい：言葉を使わないと伝わらないものがあることに気づき、自分から進んで言葉にして伝えようとする意欲をもつ。

まずは、1年1組の児童が作った標識を、1年2組と3組の児童に、どのような意味を表しているのかクイズを出した。標識の意味が書いてある短冊を用意しておき、児童に選ばせた。標識の意味を当てることで、2組と3組の児童も、言葉がなくても意味が伝わることに気付くことができていた。

1年生の児童みんなが、言葉がなくても意味が伝わることに気付けたところで、クイズを出した。「お辞儀をして、何の意味を表すでしょう。」といったクイズである。児童は、「挨拶をしている。」「ごめんなさいをしている。」「お礼をしている。」などと答えた。答えは、どれも正解であるが、お辞儀のジェスチャーだけでは、どれの意味を表しているか分からないということが実感でき、言葉がないと動作や絵だけでは伝わらないこともあり、言葉で伝える必要もあるということに気づくことができた。児童にジェスチャーだけでなく言葉も使って伝えたいことを聞くと、「こんにちは」、「さようなら」、「ありがとう」などの言葉があがった。

そこで、本時は、世界の国の挨拶を練習することを伝えた。まずは、「こんにちは」と、隣りに座っている児童に挨拶をした。次に、ベトナム語の挨拶を覚えているか聞くと、ほとんどの児童が1時間目におこなったベトナムクイズの内容を覚えており、笑顔で「シンチャオ」と挨拶をする

ことができた。その後、フランス、ケニア、ドイツ、アメリカ、中国、韓国の挨拶をクイズ形式で出し、「ジャンボ」、「ゲーテンターク」、「ハロー」、「ニーハオ」、「アニョハセヨ」とそれぞれの国の言葉を使って挨拶をした。その際、どのような表情で言ったらよいかを考えさせると、笑顔で挨拶を言ったら、相手も自分もいい気持ちになることが分かったので、世界の国の言葉を使い、笑顔で近くの人に挨拶をした。

その後、音楽発表会で、世界の国の挨拶を使った歌「世界中がともだち」を歌うことを伝え、歌の練習をした。

〈児童の反応〉

○言葉を使わなくても伝わった感想

- 標識の絵だけで、意味が伝わったからびっくりしました。
- 絵で意味が伝わるのが分かりました。
- 友だちが作った標識の意味を分かってくれてよかったです。
- みんなが標識の意味を答えてくれてうれしかったです。

○言葉を使って伝えたことの感想

- 世界の挨拶が分かって、どの場所でも挨拶ができるようになりました。
- 日本と違う挨拶だったけど、練習すると、すぐに挨拶ができるようになりました。
- 笑顔で挨拶をすることができました。
- 音楽発表会で「世界中がともだち」を歌うのが楽しみです。

〈所感〉

作った標識の意味が、他のクラスの児童にも伝わったことで、言葉がなくても伝わるということが実感できた。今回は、時間が取れず教師が標識を発表したが、もう少し時間を取り、児童自身が標識を発表すれば更に、言葉がなくても伝わるということを実感できるのではないかと思った。

世界の国の挨拶を使って、挨拶練習をする際は、友だちと向かい合い、ハイタッチや握手をして笑顔で挨拶できるようにした。日本を含め、8カ国の国の挨拶をおこなったが、どの児童も国による言葉の違いを感じながら笑顔で挨拶をすることができていた。

授業後には、廊下に世界の国の国旗や挨拶を掲示して、廊下を通りながら、世界の国の挨拶を覚えることができるようにした。

～「世界中がともだち」の中のでてくる世界の国の国旗と挨拶～



フランス「ボンジュール」



ベトナム「シンチャオ」



日本「こんにちは」



アメリカ「ハロー」



ドイツ「ゲーテンターク」



ケニア「ジャンボー」



中国「ニーハオ」



韓国「アニョハセヨ」

7 時間目

○音楽発表会で歌の発表をする。

ねらい：学んだことを表現する場として、世界の国の挨拶の歌を笑顔で歌い、聞いている人に気持ちを届ける。

〈本時の流れ〉

「世界中がともだち」の歌の途中にある世界の国の挨拶の所では、世界中の人と仲良くなれるように、世界中の人に挨拶が届くようにと笑顔で世界の国の挨拶を言った。また、その国の国旗を代表児童が頭の上に入れて提示をした。国旗を提示する際に、JICA 中国から貸していただいた世界の楽器も一緒に演奏した。マダル（ネパールの楽器）、バオバブの実のマラカス（マリの楽器）、シュケレ（タンザニアの楽器）などを珍しい楽器を挨拶に合わせて元気良く演奏することができた。



アメリカの言葉でハロー、ハロー♪



ベトナムの言葉でシンチャオ♪



「世界中がともだち」を笑顔で歌えたよ

〈児童の反応〉

- ・笑顔で歌を歌うことができました。
- ・世界の国の挨拶をする所をがんばって歌いました。
- ・世界の国の挨拶を頑張っって覚えて、みんなの前で発表できてよかったです。
- ・世界の楽器を演奏できて楽しかったです。
- ・世界の人の心が一つになるように歌えました。
- ・世界の人に挨拶が届くように笑顔いっぱい歌えました。

全体を通しての成果と課題

今回の授業実践の単元のゴールを音楽発表会にもってくることで、保護者の方や地域の方にも、学びを発表することができた。そこで、児童が、世界の人の心が一つになるようにという願いをもって歌を歌ったり、世界の人に挨拶が届くように笑顔いっぱい歌を歌ったりすることができた。しかし、挨拶がその国の人に伝わったときの楽しさを体験させることができなかつたのが、課題として残った。今後、学校に来ている ALT と連携をして、交流の場を設定したいと考える。

また、ベトナムクイズや、ベトナムと日本の文化を比べた授業の後には、「もっとベトナムのことが知りたい。」「ベトナムではない国のことも知りたい。」という声が児童からあがったので、教室に他の国の暮らしや文化を知ることができる本を置いた。置いた本は、「文化のちがい 習慣のちがい ウキウキ生活スタイル」と「写真でみる 世界の子どもたちの暮らし」の2冊である。1年生の児童にとっては、習っていない漢字が多くあつたので、朝の会や帰りの会などの空き時間を利用して、一緒に読んでいった。「文化のちがい 習慣のちがい ウキウキ生活スタイル」の本は、文化がどうして違うのかといった背景も詳しく書いてあるので、文化の違いに驚くことはあつたが、文化の優劣をつけることなく、児童が「いろんな文化があつて面白い。」「国が違つてもやっぱり日本と似た所もある。」といった感想をもつていた。

そして、廊下にベトナムコーナーを作つたり、ベトナムの標識や世界の国の国旗や挨拶を書いた模造紙を掲示したりすることで、1年生の児童だけでなく、他学年の児童もベトナムについて興味・関心をもつことができた。保護者の方から、テレビでベトナムのことをやっている際、子どもが、「ベトナムにはバイクがたくさん走っているよ。」と教えてくれたことや、ベトナムに単

身赴任している父親に子どもが電話で「シンチャオ」と挨拶をしたことなどをお便りで教えていただいた。

以上のことから、授業実践を通して、日本のことだけでなく、世界のことにも興味・関心をもつようになったのではないかと実感した。その知的好奇心を持ち続け、音楽発表会の歌詞にあった、「こんにちと挨拶すれば世界中がともだち」のように、異なる文化をもつ人々と出会ったときにも積極的に楽しく関わって行って欲しいと思う。そのためにも、教師自身が、人と人との繋がりやグローバルな視点を大切に国際理解教育の実践を継続し、さらなる習熟をめざしていきたい。

参考資料

【書籍】

- JICA 中国「どうなってるの？世界と広島県」
- JICA 中国「平成 25 年度ベトナム教師海外研修 参加型で学ぶ国際理解教育授業実践報告書」
- unicef「写真でみる世界の子どもの暮らしー世界 31 カ国の教室からー」（あすなろ書房）
- 須藤健一「文化のちがい 習慣のちがい ウキウキ 生活スタイル」（学研）

【インターネット】

- 「DEAR 開発教育教会（レヌカの学びカード）」 http://www.dear.or.jp/book/book01_renuka.html
- 「AEFA アジア教育友好協会」 <http://www.nippon-aeffa.org/>
- 「ベトナム社会主義共和国ー外務省」 <http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/vietnam/>
- 「世界の面白い道路標識まとめ」 <http://matome.naver.jp/odai/2128399924794850201>
- 「KICTEC 道路標識何でもコーナー」 <http://www.kictec.co.jp/varieties-road-sign/>
- 「世界の国の国旗」 http://www.suginami-s.net/travelrep/world_data/flag.html